

安全で住みよい
まちづくり
ニュース
防災交通課
(内208)

防災への意識改革 31

室内に潜む危険性

突然の地震に襲われて、自分や家族がけがをしたら、どうなるでしょう。

けがを負うと、その後の避難行動や地域の一員としての役割(相互の助け合い)などすべてに支障が生じます。けがの有無の多くは、揺れ始め三秒間の行動で決まると言われています。皆さんの家庭内(室内)を見渡して、潜む危険性を考えてみましょう。

家庭内ではけがをしないための予防策は

- 家具の固定
- 家具のレイアウト(配置)
- 家族全員の行動ルール

家具の固定とレイアウト(配置)
地震が就寝中に発生することも考え、暗闇の中を想定します。室内にあるすべての家具が固定され、ガラ

スにも飛散防止フィルムが張られているのが理想です。固定できない家具がある場合は、どの向きにどの位置まで転倒するか(被害に遭うか)を考えます。もしその位置で就寝している場合は、家具の配置を変えるか、就寝位置を変えます。家族全員が部屋の中で、どこが危険でどこが安全かを認識することが大切です。

室内に必ず一カ所は安全な場所(ゼロリスク空間)を作ってください。避難経路の確保も大切です。家具が倒れてもドアが開く配置をしてください。

阪神淡路大震災の検証から、寝室と子ども部屋の家具転倒率が、居間などの部屋より高くなっていますが、このことは、部屋の広さ(床面積)に対して、家具の数が多すぎる傾向になりやすいためと考えられます。

家族全員の行動ルール

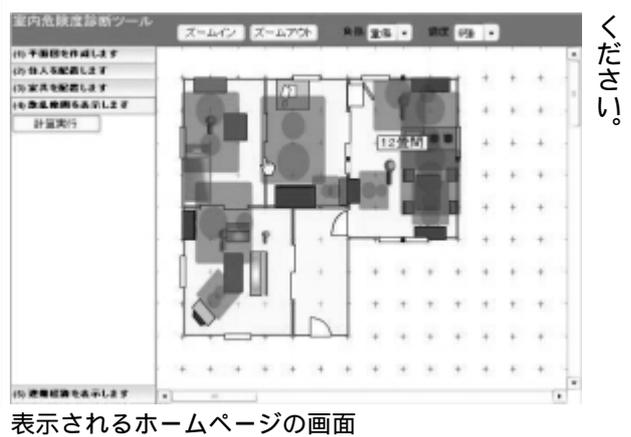
揺れに気づいたら、すぐに安全な場所(ゼロリスク空間)に逃げ込みます。揺れている時は、むやみに動かない

いことです。お互いに声を掛け合い、安全な場所にいることを確認し、無理な行動は控えましょう。子どもや高齢者にも「室内の安全な場所」を覚えておくことが大切です。

室内の危険度を診断

どれくらいの揺れで、室内の家具がどのように転倒するか、どの場所が安全かを予測し診断するホームページが公開されています。

<http://www.hitachi-to.co.jp/products/sindan/system.html>を入力後「室内危険度診断システムの起動」を開いて危険度を診断してみてください。



表示されるホームページの画面



町長室へ報告に訪れた各団体の代表の皆さん

防犯パトロールの実績認められる

一月十一日、半田市雁宿ホールで半田警察署感謝状贈呈式が行われました。

贈呈式では各地区で防犯パトロールを実施している次の四団体の代表に感謝状が手渡されました。

- 宮津山田自治会防犯パトロール隊
- 草木自主パトロール隊
- 福住防犯パトロール隊
- 植区防犯パトロール隊

一月十七日、町長へ報告に訪ね地域の皆さんのために行っている活動が認められて大変うれしい。地区のためにパトロールを続けます」と皆さん口をそろえて、力強く今後の抱負を語っていました。